

【人材の養成に関する目的】

<p>■文学部</p> <p>文化現象の総合的理解およびその継承を基本理念とし、その実現のために、教養教育及び専門教育との適切な調和を考慮した、少人数教育を基本とするきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力および多面的な分析能力の伸長を図ること、ならびに言葉を通して形づくられた人間、歴史および社会の多様なあり方を考究し、共感を持って他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することを目的とする。</p>	<p>■英語英米文学科</p> <p>1 自国の文化及び異文化を相対化して読み解く力を養成する。このために、英語及び英語圏の文化・芸術・思想を学ぶことを通じ、ことばに対する鋭敏な感覚と高度な理解力を涵養する。</p> <p>2 英語圏の言語・社会・文化・歴史・芸術・思想に関する幅広い理解を背景に、英語圏に限らず広く現代の社会が抱える様々な問題について多角的・批判的に検討する思考力を持ち、他者との協働によって自分の考えを深め、そしてそれを発信する自発性・自律性ある人材を養成する。</p>
--	---

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

文学部英語英米文学科は、大学全体の学位授与方針に基づき、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（文学）の学位を授与します。

<p>【専門分野の知識・技能】</p> <p>（DP1-1）英語英米文学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。</p> <p>（DP1-2）文化的他者とのコミュニケーションにおいて基礎的な技能となる英語力を修得している。また、そのために必要な言語・社会・文化・歴史・芸術・思想に関する専門的な知識の中から個人の関心に応じて必要なものを修得している。</p> <p>（DP1-3）言語学の基礎的な概念及び理論を修得し、言語学の方法論を用いて英語や他言語の仕組みを分析し理解することができる。</p> <p>（DP1-4）英語圏文学・文化の成り立ちを理解し、個々の作品や事象について専門的見地から分析し理解することができる。</p> <p>（DP1-5）第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。</p> <p>（DP1-6）主要な英語圏の芸術・思想について熟知し、それらについて専門的見地から分析し理解することができる。</p>	<p>【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）</p> <p>（DP3-1）課題の本質を発見するために必要な情報（文献、統計等を含む）を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている。</p> <p>（DP3-2）言語及び英語教育に関する課題の本質を発見するために、文献にあたり、課題解決に必要なデータなどを収集し、得られた情報を論理的に分析及び考察することができる。</p> <p>（DP3-3）英語圏文化・芸術・思想に関わる課題の本質を発見するために、関連文献を調査収集し、作品や事象を的確に解釈・分析して、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている。</p>
<p>【教養の修得】（広い視野での思考・判断）</p> <p>（DP2-1）人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。</p> <p>（DP2-2）英語及び英語圏の文化・芸術・思想に関し、学科教育の基盤をなす諸学問分野の視点を組み合わせ、必要に応じさらに幅広い分野の知見を加えて、学際的かつ総合的に理解する力を備えている。</p>	<p>【表現力、発信力】</p> <p>（DP4-1）自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明確に発信できる豊かな表現力を身に付けている。</p> <p>（DP4-2）学術的テーマについての分析、考察、結論づけを少人数制の演習（セミナー）での発表やレポート・卒業論文の作成を通じて、他者にわかるように論理的に伝えることができる。</p>
	<p>【多様な人々との協働】（コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）</p> <p>（DP5-1）多様な人々と協働して課題解決に取り組んだ経験を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身に付け、チームの中で自分の役割を的確に果たすことができる。</p>
	<p>【自発性、積極性】</p> <p>（DP6-1）学びで獲得した知識・技能を、様々な活動（正課・正課外や学内・学外を問わず）において自発的・積極的に活用した経験を有している。</p>

※ 全学共通科目については、「全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）：学修・教育目標（科目グループ別カリキュラム・フロー）」を参照。

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標	1年次 配当科目・単位数		2年次 配当科目・単位数		3年次 配当科目・単位数		4年次 配当科目・単位数	
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム

1 専門科目

必修科目	英語 必修科目	1-1 1-2 1-3 1-5	英語圏文学・文化、英語学、英語教育の分野の専門性を高めるために、外国語としての英語の運用能力を強化する。	Summer Intensive ②	Integrated English I ②	Integrated English II ②	Integrated English III ②	Integrated English IV ②	Integrated English V ②	Integrated English VI ②		
	演習科目	1-1 1-2 3-1 4-1 4-2 5-1	英語英米文学科の専門分野に関する知識・技能を修得し、批判的・論理的思考力、課題探求・問題解決力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。	セミナーⅠ ②	セミナーⅡ ②	セミナーⅢ ②	セミナーⅣ ②	セミナーⅤ ②	セミナーⅥ ②	セミナーⅦ ②	セミナーⅧ ②	卒業論文⑧

選択科目	フォーカス科目	入門科目	1-1	言語学系、文化研究系、文学系の三つの専門分野における入門的素養を身につける。	言語学入門②	英語圏文化入門②	英語圏芸術・思想入門②										
		言語と社会	1-1 1-3 2-2 3-2	言葉と社会の間には絶え間ない相互作用があり、言葉は人々と社会を映し出す。そのような言葉の仕組みとその働きを社会との関係性の中で深める。	言語学A②	言語学B②	言語と社会研究基礎A②	言語と社会研究基礎B②	言語と社会研究基礎C②	言語と社会研究発展A②	言語と社会研究発展B②	言語と社会研究発展C②	言語と社会研究発展D②				
		文化と歴史	1-1 1-4 1-5	人が使う言葉には必ず背景があり、それを知ることにより優れた英語使用者となる。語学としての英語を学ぶだけでなく、英語で文化を学ぶ。	英語圏文化研究基礎A②	英語圏文化研究基礎B②	英語圏文化研究基礎C②	英語圏文化研究基礎D②	英語教育②	英語圏文化研究（異文化コミュニケーション）②	英語圏文化研究（ジェンダー）②	英語圏文化研究（人種関係）②	複言語・複文化主義②	ポストコロニアリズム②	レイシズム②	英語圏文化研究発展A②	英語圏文化研究発展B②

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標
	芸術と思想	1-1 1-4 1-6
関連科目	2-1	

1年次 配当科目・単位数	
第1ターム	第2ターム

2年次 配当科目・単位数	
第3ターム	第4ターム

3年次 配当科目・単位数	
第5ターム	第6ターム

4年次 配当科目・単位数	
第7ターム	第8ターム

英語圏芸術・思想研究基礎A②	英語圏芸術・思想研究基礎B②	英語圏芸術・思想研究基礎C②	英語圏芸術・思想研究基礎D②	英語圏芸術・思想研究基礎E②
英語圏芸術・思想研究発展A②	英語圏芸術・思想研究発展B②	英語圏芸術・思想研究発展C②	英語圏芸術・思想研究発展D②	英語圏芸術・思想研究発展E②
アメリカ文学史②	イギリス文学史②	舞台芸術論②	批評理論②	

ヨーロッパの歴史と文化A②	アメリカの歴史と文化A②
ヨーロッパの歴史と文化B②	アメリカの歴史と文化B②
世界の言語文化②	

トピック・セミナーA②	トピック・セミナーB②	トピック・セミナーC②	トピック・セミナーD②	トピック・セミナーE②	トピック・セミナーF②
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

ラテン語②	古典ギリシア語②
-------	----------

文学部学際発展科目A②	文学部学際発展科目B②	文学部学際発展科目C②	文学部学際発展科目D②
文学部学際発展科目E②	文学部学際発展科目F②		

AIと創作②	機械翻訳概論②	デジタルアーカイブ概論②	AIと倫理②
--------	---------	--------------	--------

文化政策学②	アート・アドミニストレーション②	地方自治体の文化行政②	文化政策と法②	舞踊論②	アート・ジャーナリズム②	上演芸術論②	芸術文化行政特講A②	芸術文化行政特講B②	写真論②
制作演習A②	制作演習B②	制作演習C②	制作演習D②	制作演習E②	制作演習F②				

日本語教育概論②	日本語教育方法論②	日本語教育理解と実践②	日本語教育事情②	言語学講義（言語と社会）②	日本語の学習と習得②	言語の構造②	対照言語学②
日本語教授法②							
日本語教育演習②							

日本語教育実習①

文学部総合講義A②	文学部総合講義B②	文学部総合講義C②	文学部総合講義D②	文学部総合講義E②	文学部総合講義F②
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

英語科教育法Ⅰ②	国語科教育法Ⅰ②	社会科・地理歴史科教育法②	社会科・公民科教育法②
----------	----------	---------------	-------------

英語科教育法Ⅱ②	英語科教育法Ⅲ②	英語科教育法Ⅳ②	国語科教育法Ⅱ②	国語科教育法Ⅲ②
国語科教育法Ⅳ②	社会科教育法A②	社会科教育法B②	地理歴史科教育法②	公民科教育法②

Topics in Business②	Japanese Economy②	Topics in Political Studies②	Regional Studies②	Law in Society②	Japanese Contemporary Issues②
Topics in Japanese Culture②	Topics in History②	Science and Technology②	Japanese Popular Culture②	Japanese Art②	Japanese Linguistics②
Language and Literature②	Phonetics and Phonology②	Geography②	Climate and Nature②	Global Career Design②	Special Seminar②

（全学共通科目の所定の単位を超過して修得した単位：10単位まで卒業に必要な単位に算入。）

（他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位）

2 自由設計科目（選択科目）

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標
トピック・セミナー	2-1	テーマに沿ったいくつかのトピックを取り上げた学修を通じて、専門への基礎となる幅広い素養を身につける。
ことばの世界	2-1	古典語の学修を通じて、語学力を磨き、異文化に対する理解を深める。
文学部学際発展科目	2-1	多様性と社会的包摂に関する科目等を通じ、共生の時代を生きるための教養の修得する。
デジタル・ヒューマニティーズ科目	2-1	人間とテクノロジーとの共生について、人文学と工学の両面から考察を行う。
芸術文化行政コース開設科目	3-1 4-1 5-1 6-1	行政による芸術文化支援について学修し、芸術文化振興の担い手として必要とされる知識と能力を身につける。
日本語教員養成コース開設科目	1-1 4-1 6-1	外国人に対して日本語を教授するために必要な言語としての日本語をめぐる知識および日本語教授法の実践について学修する。
文学部総合講義	2-1	外部機関との連携等による講座を通じて、幅広い教養を身につける。

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標
教職課程の各教科の指導法に関する科目	-	-
Global Studies科目	2-1 3-1 4-1 5-1 6-1	高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生を対象とした全学的な成蹊グローバル教育プログラム（GSP）の科目であり、グローバル市民として国際性と学際性の高い知見と教養、ビジネスや実社会で求められる主体性及び実践的なスキルを養う。
全学共通科目超過単位	-	各科目グループ、全学共通科目の規定の単位数を超過して修得した単位、他学科科目、他学部科目の履修、他大学との単位互換制度で修得した単位を卒業のための単位として認めるための区分であり、学生自身の興味や将来の目標などに応じて、長期的な履修計画を立てながら有効に活用することができる。
他学科・他学部・他大学	-	

文学部共通科目

複合・学際科目